

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その25

文：星 眞智子^{ま ち こ}さん

1回で終わった飯豊山登山リレー

今から86年前の昭和8年(1933)8月、「第1回飯豊山登山リレー」が開かれました。これは旧会津藩主容保公の七男松平保男子爵を総裁とする「飯豊山保勝会」が主催したもので、スタートを山都小学校、ゴールを奥川小学校とし、踏破総距離は15里12町(60.2^キ)、12名の選手がリレーし、予定所要時間8時間、選手は耶麻郡在住の身体強健な16歳以上の青年・在郷軍人とするものでした。標高差約2,000^尺、難所も多く山岳リレーとしては最高難度でした。参加チームは、一ノ木A・B、関柴、木幡、慶徳そして奥川の6チームで、奥川チームは、弥平四郎より8人、小屋・梨平・小山ほかより各1人の選手での構成となりました。



↑飯豊山登山リレーの記念写真

8月13日午前5時15分スタート。奥川チームの第1走者は5位と遅れを取りましたが、山頂の飯豊山神社に到着したときには第2位まで追い上げました。第8走者である弥平四郎の選手には、“御秘所の岩場で、前を下る慶徳の選手に「先に行くぞ！」と声を掛け、頭上をひらりと飛び越えて抜き去り、首位に躍り出た”という逸話が残っています。奥川チームは、そのまま最終走者まで順位を守り切ってゴール。タイムは、5時間27分37秒でした。優勝した奥川チームには子爵寄贈の優勝カップが授与され、賜杯が贈られました。この優勝カップと賜杯は奥川みらい交流館に保管・展示してあります。



↑奥川みらい交流館に保存してある優勝カップ

こうして見事優勝の栄冠を手にした奥川チームでしたが、世は満州事変や国際連盟脱退など、戦争へと向かいつつある時代。そのため、飯豊山登山リレーは残念ながらただ1回だけの開催でその幕を閉じています。



今月の表紙

今月号の表紙は、4月8日に行われた西会津小学校の入学式から。新入生代表が校長先生より教科書を受け取るシーンです。目を輝かせながら受け取っている表情がとても印象的でした。

(8ページに関連記事)

編集後記

このたび、4月の人事異動により新たに広報紙を担当することになりました。まだ、右も左も分からない状態ですが、町の施策やニュース、話題やイベントなどを紙面いっぱいにつけて発信し、町内外の多くの皆さんに町の様子を知ってもらえるような広報紙にできればと思います。また、西会津の美しい自然や風景、パワースポットのような場所を紙面を通して発信していきたいです。取材を通じて、多くの町民の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。

情報政策係 大堀 貴満